

# 194 雀孝行

父母が病にかかてい、病が重さぬ、あんし、二人、長女娘と、次女娘と、娘二人、生ちやくとう、親め達やな、

「いつべー重病やくとう、早く来り」んちやくとう、長女娘、ちゆらすがいすんでいちな、いつちん来らん。クラえな、しぐ、着物ん着ま、フクター着ま、親め見舞しが来くとう、うれー親め見舞あたとーるばて、親め、命落らんま、生ちゆる間なかい、クラや来くとう。

また長女娘、またちゆらすがいすんちな、いつちんなーうりさくとう、

「だー姉や」んちやくとう、

「あれ、ちゆらすがいすんち来らんさ」んちやくとう、来くとう、

父母が病気になつて、病があまりに重くて、それで、二人、長女と、次女とを、娘が二人、生まれていたので、親たちはもう、

「とつても重病だから、早く帰つて来なさい」というと、長女は、着飾ろうとして、なかなか帰つてこなかった。次女のクラは、すぐ、着物も着たまま、フクター着たまま、親の見舞いに来たので、クラは親の見舞いに間に合い、親の、命の落ちないうちに、生きている間に、クラは来たそうだよ。

ところが長女は、また着飾ろうとして、ちつとも帰つて来なかつたので、

「だあ、お姉さんは」と言うと、

「お姉さんは、着飾っているので来れなかつた」と言ううと、来たので、

「とーいやーや、親<sup>うや</sup>ぬ孝<sup>こ</sup>んねーんくとう、川<sup>か</sup>原<sup>ら</sup>端<sup>ば</sup>みぐ  
てい、雨<sup>あみ</sup>ん風<sup>かじ</sup>ん濡<sup>ぬ</sup>てい、魚<sup>い</sup>取<sup>と</sup>てい食<sup>か</sup>みよー」「クラ  
や、いやーや親<sup>うや</sup>ぬ孝<sup>こ</sup>さくとう、倉<sup>くら</sup>みぐてい、倉<sup>くら</sup>米<sup>ぐみ</sup>、  
米<sup>くみ</sup>食<sup>か</sup>みよー」んでいち、昔<sup>んかし</sup>話<sup>はなし</sup>やんでい。

字小波蔵 伊敷力ミ

「おまえは、親の孝行もしないから、川端を廻って、  
雨にも風にも濡れて、魚を取って食べなさいよ」「ク  
ラーは、おまえは親の孝行をしたので、倉を廻って、  
倉の米、米を食べなさいよ」という、昔話だそうだ。